

## 名古屋工業大学大型設備基盤センター第一回業務報告会

今年度は新たな試みとして、設備サポートカルテと業務報告会をスタートさせました。設備サポートカルテでは、個々の設備について、設備取扱い責任者（教員）と面談し、必要に応じて技術職員も陪席し、設備のハードとしての現状と将来展望、分析側の技術レベルの現状と将来展望を話し合い、カルテに記入しています。この業務（技術）報告会は、その技術レベルの将来展望を具現化するための報告会です。単発的に、たまたま今年実施した実施例を報告する会ではなく、例えば3年後にこの技術レベルに達しているためには、初年度は先ずこの技術を習得し、次年度はこれ、そして3年後にはここまでの技術レベルを達成、その初年度の達成技術を披露する会という位置づけです。当然のことながら、技術系職員のこれまでの経験と実績で、スタート位置、目標はさまざまです。設備取扱責任者との密接な連携も必要です。それらの総合報告の場です。

初年度の今年は、3月11日に開催いたしました。本年度の目標、達成度、事例紹介の構成で13件の発表が行われました。初めての試みですので、この企画の意図が十分に浸透できていなかった部分も見られましたが、技術系職員にとってはモチベーションの向上、仲間の仕事内容を改めて知るよい機会であり、来聴者には彼らの日頃の仕事ぶりを知ることができ、有意義な会となりました。次年度は、2年目の目標とその達成成果を報告する予定です。これを積み重ねることで頼れるセンターを目指します。

なお、13件の発表の中から、次の2件が優秀発表賞に選ばれ、記念品が贈呈されました。

- \* 岩坂彩子研究員「WDS・EDSを用いた微小領域の分析」
- \* 谷山八千代技術専門職員「CHNS 元素分析測定における妨害元素の影響について」



中村技術部長を囲んで集合写真



種村センター長 岩坂研究員 谷山技術専門職員 大谷副センター長

### プログラム

日時：平成25年3月11日（月）13時～16時45分

会場：名古屋工業大学22号館プレゼンテーションルーム

- 13:00～13:05 大谷副センター長挨拶・趣旨説明
- 13:05～13:10 玉岡悟司「技術部の活動について」
- 13:10～13:25 南口泰彦：液体寒剤の安全な利用および液体ヘリウム供給の危機について
- 13:25～13:40 瀧 雅人：四極子核の利用促進を目的とした実施例
- 13:40～13:55 加納慎也：固体 NMR における多核種測定について
- 13:55～14:10 有吉怜應：FT-IR 及び Raman 分光法による相互補完利用
- 14:10～14:25 森口幸久：ESCA による多孔質膜への吸着色素の測定
- 14:25～14:40 日比野寿：設備サポート講習会「FIB を用いた TEM 観察試料の作製」の実施結果と今後の課題
- 14:40～14:50 休憩
- 14:50～15:05 小川直也：ESI-MS/MS による有機物の構造解析
- 15:05～15:20 山本かおり：質量分析室における業務と MALDI-TOF-MS の測定事例紹介
- 15:20～15:35 岩坂彩子：WDS・EDS を用いた微小領域の分析
- 15:35～15:50 谷山八千代：CHNS 元素分析測定における妨害元素の影響について
- 15:50～16:05 石川敬直：ICP-AES 測定における軸方向観測と横方向観測での信号強度変化
- 16:05～16:20 瀬戸しずか：TEM II の日常業務と透過電子顕微鏡習得技術の紹介
- 16:20～16:35 塚田 究：AES による断面分析と深さ方向の波形分離分析
- 16:35～16:40 講評 1 中村技術部長
- 16:40～16:45 講評 2 種村センター長